

被害リスクマップの留意事項と利用方法

1 留意事項

(1) ツキノワグマ人身被害発生リスクマップ

- ・2001-2007年度の森林外での目撃・人的被害情報(計194件)を基に被害予測式を構築し、図化した。予測式は、植生(針葉樹・広葉樹といったもの)、地形(標高等)、人的要因(人口密度等)、クマ推定密度(簡易版)により構築した。なお、林道や森林内での目撃と、情報が不明瞭で目撃位置の特定ができなかった情報は含まれていない。これは森林内でクマを目撃することは当然であるから、リスクとは見なさないと判断したためである。
- ・リスクマップではツキノワグマの出没確率が高い地点を赤く、出没確率が低い地点を青く塗ってある。ただし、クマの出没は森林から500m以内に限定されていたため、この地図において森林から500m以上離れている地点は「被害リスクなし」とみなして塗り分けをしていない。

(2) リスクマップの基本的性質

- ・リスクマップは「予測」によるものであり、必ず「誤差」を含む。「ツキノワグマ人身被害発生リスクマップ」においては構築した被害予測式の的中率は74.2%である。

2 利用方法の例

ほ場作業中におけるツキノワグマとの遭遇リスクを検討する基礎資料として活用できる。また、農業者だけでなく、児童・生徒の通学時における「クマよけスズ」着用の判断基準などの参考になる。